

宝地区

金井

曹洞宗 向富山用津院

長生寺末

本尊由緒

氏稱「用津院」請師住持、学徒接跡而至、是当山天沢両寺開祖、延徳四年十一月十三日寂、当寺の後山に葬る墳墓今に存せり領主鳥居久五郎成次より寺領寄附の印書あり」と記されている。

開山履歴

開山は鷹岳宗俊禅師である。興起縁由参照。

結構規模

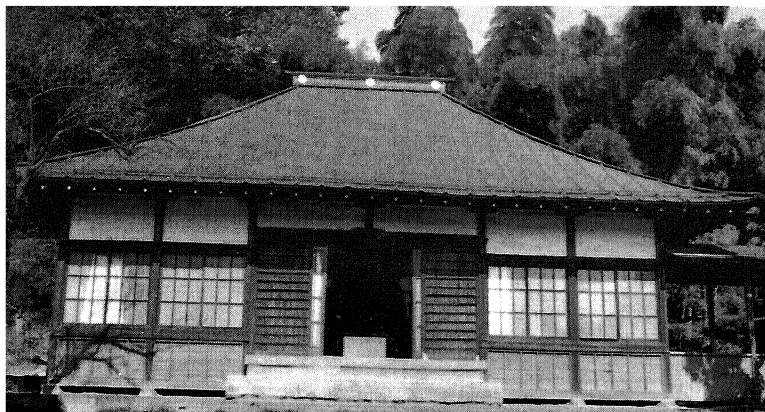
〔本堂〕寄棟トタン葺 6×5 K

〔庫裡〕85×5 K。トタン葺。

歴代住職

開山鷹岳宗俊―二世積桂宗篤―三世鷲吞牛鷲―四世沢雲潤天―五世大雄萊仙―六世巨峰是海―七世文月桂芳―八世仰州愚胆―九世大洞正遷―十世開田伴農―十一世連城邦玉―十二世中興魁山雪岩―十三世雪州大領―十四世実山泰了―十五世祥麟泰瑞―十六世大翁泰道―十七世逸乗不昧―十八世大英靈牛―十九世独提智挙―二十世国田智成―二十一世大法祖伝―二十二世大道祖宗―二十三世精忠―二十四世教道―二十五世祖法禅旨―二十六世法山秀雄（現住）

石仏像



用津院本堂

合祀仏

聖観者、郡内十六番札所「あなとうと、たのむちかひわかんおんに、みちびきたまえ、はこぶあゆみを」のご詠歌がある。

興起縁由

甲斐国志によると「開基小山田耕雲、開山鷹岳宗俊禅師、聯灯録云都留郡主小山田

恒例の宗教行事

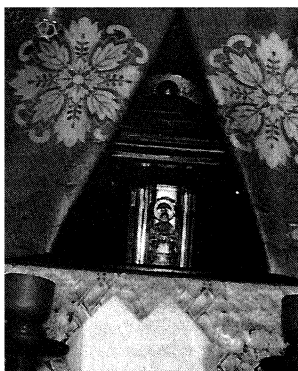
大施餓鬼法会

民間信仰による行事

毎年二月二十五日、六地藏尊縁日。

伝説

郡内義民六地藏



用津院本尊



六地藏尊

義民七人の名前は次の通りである。

総百姓総代

秋山村 左近

新倉村 太郎左衛門

戸沢村 孫兵衛

網野上村 八右衛門

花咲村 孫兵衛

小沼村 勘右衛門

武兵衛

金井

臨済宗 富春山桂林寺

本寺は京都妙心寺

末寺は現在左記六。カ寺である。富春寺、瑞雲寺、東陽院、

清泉寺、天正寺、宝積寺。

本尊由緒

本尊は東方薬師瑠璃光如来坐体の木像にして、像長は43 cm、膝張り36 cm、面長15 cm、面巾11 cm、胎内に釈迦尊像が祀られている。胎内仏の像長32 cm、面長11 cm、面巾6 cm、仏工運慶の作と伝えられている。

合祀仏

郡内一円に散在する六地藏は、当時の六地藏信仰によせて七人のめい福を祈ったものであると伝えられ同寺境内の六地藏には七人の犠牲者の像が刻まれている。

志に記されている。

開山履歴

創建開山格智禪師は相州鎌倉建長寺に住していたが、退いてこの地に来錫し当寺を開創した。依て建長寺派に属していた。その後隠退して諸方を歴遊し仏舎の癡類するを憂えてこれを復興し末刹とした。従って往古よりこの寺は本寺格であった。永享五年八月十五日入寂享年八十九歳。

結構規模

本堂 65K×55K、庫裡 55K×85K、玄関 4K×3K、薬師堂 2K×25K
物置 2K×3K

歴代住職

創建開山格智禪師、中興竺元禪師、三栄西堂、永岳西堂、咲院西堂（以上建長寺派）。

一世中興開山始祖大光覚雲禪師安山宗泰和尚。二世担道和尚—三世禪関和尚—四世湘外和尚—五世閻山和尚—六世蘭室和尚—七世聯芳和尚—八世寛量和尚—九世月休和尚—十世快隣和尚—十一世機山和尚—十二世遂巖和尚—十三世月階和尚—十四世碩道宗博（現住）

古器、什器、宝物、

明治十九年火災のため焼失。



桂林寺 本堂

興起縁由

末寺中津森誓願寺
本尊観世音菩薩
元大奈良部落に安置されていた薬師如来
明徳年間格智禪師
此の地に遊化のとき、領主小山田出羽守富春、師の高徳を帰仰し大檀越となり開基す。公の諱を以て山号となし富春山桂林寺

と称した。法名は桂林寺桂堂香公居士。中興開基は小山田左兵衛尉信茂にして、法名は実山宗悟居士。
小山田氏の墓所は今に存している。

この寺古は鎌倉建長寺末にて末寺も数多くあつたが、後世妙心寺に属し末刹も大方離れて今は六カ寺である。なお、「道和尚の時領主秋元越中守寄進として諸堂造営あり」と甲斐

大馨子は唐金製にして鎌倉時代のものである。と伝えられている。

白隠禪師語録

石仏像

石仏像は境内に数体安置されている。

恒例の宗教行事

一月一日 祝禱
二月十五日 涅槃忌
三月十一日 開山忌
四月八日 仏生誕会
八月十二日 施餓鬼会
九月五日 達磨忌
十月十二日 花園総会
十二月十二日 無相忌

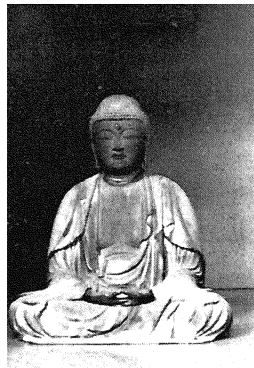
民間信仰による行事

四月十五日 弁財天縁日
十月十二日 薬師如来縁日

伝説

①叶ヶ池

創建開山格智禪師鎌倉より遊化の際、鶴ヶ岡八幡と江の島弁



桂林寺 本尊



小山田出羽守の墓

財天を信奉し、弁財天を護法神として竹林内小池の辺りに勧請した。土人早魃に逢う毎に雨を乞うたが果して奇瑞があり、いわゆる弁財天の感応靈験があつたといわれている。この故にこの池のことを叶う池と称し、金井という部落名の起源であるとも伝えられている。

②豊兆の桜

樹齢数百年に及ぶといわれる、開山禪師自哉の桜がある。土人これを豊兆の桜と伝唱している。

その他

白隠禪師と桂林寺

六世蘭室和尚は白隠禪師との親交極めて密であった。七世、八世、九世各和尚はそれぞれ白隠門下で禪師の影響を受けている。十世快隣和尚は白隠下東領和尚の法嗣で当代一流の禅匠であった。

白隠禪師語録「荊叢毒藥」抜粋

桂林和尚到上堂拏五祖演禪師示衆云諸莊早損我總不憂只憂禪家無眼今夏百余人室中拏箇狗子無仏性話無一箇會得此可為憂師曰東山老人暗地裡放無煙黒火欲焦爛多少納僧命根大可恐鶴林即不然何管無人会老僧說話底今歲蝗虫入西東境但恨我住庵七十箇饑納子拏空鉢帰来抱膝

暗嗟呼卓柱杖云苦中樂樂中若且喜桂林蔭涼樹前村聞說大秋
成又卓一下下座。 更に桂林蘭室和尚三回忌拈香曰
惟時延享乙丑魁夏念九向 前往富春蘭室郁和尚三回忌景 補処
桂林堂頭以抄春上巳日 予展 開齊筵於毘那城中 日出卯雲門
胡餅滿肚不告玉饌於香積園裡 輪当午金牛飯桶一堂其誦經諷
呪次飯 手於山野 拈起一弁 惟老師初在 桂林 者二十霜鉗鎚
妙密法懂孤危炉韃密埋 伏万石毒焰 笏室鎮膏 轄永劫願輪
中 潜遁 睡前村福寿老院 願海則老増深広也今西東数村縋素
勇義進善者皆此老提教摧門教諭力也桂林堂頭統 得此老扶宗
大志 拳拳忠体令者十齡這回翼 自得丈室生平懷素 命予評唱不
思議解脫經 者一会遠邑近里各孜孜而大義既成辨顧復惟非老
師從前風靡余波 而什麼那於此予亦燒香展拜欲 称 揚先人余
烈 拈香曰者木札羹不 仮造化工 不 勞剪代力 無量劫来沈波
黑暗海裏 山野四十年前向 鴉臭破蒲団上無明黒火抗裏 惣然
摸索著東拈西弄驚 殺仏界 震 裂魔宮 誰弁 其 由 即今熱向
炉中 貫 穿老師大寂定中遼天鼻孔 十方常住三宝竜天護法湿
胎卵化有情非情誰不受斯力毒焰薫徹臭蘭室東甲人今夢亦芳師
道三年大煥發庵羅園裏一糸香。

中央像14 cm、その他各々4 cm、
善光寺如来 銅製像長51 cm、明治三十三年七月七日当山二十
二代代、
阿弥陀如来 木像立体（元浄土庵の本尊であつたもの）像長
149 cm、

興起緣由

人皇八主代土御門天皇の建仁二年、將軍源頼家公の命を奉じ、
寿三和尚鎌倉より此の地に來て一寺を建立し開基となる。開
開山の大川和尚より数代にわたり建長寺の末刹であつた。天文
九年曹洞宗石心禪師が住持となり改宗開山となり、八代郡米
倉龍安末となる。天正十年十一月鳥居彦右エ門元忠が、「山
林不可伐採」の制札を与え、同十九年正月十六日羽柴少
将秀勝が、「参貫文の地並に山林門前諸役免許」の印書を与
えられ、なお同十一月十四日加藤作内より八石二斗の地が寄
附され三ヶ条の制札を与えられた。慶長六年八月二十七日鳥
居久五郎成次によって四石の地が寄進され、寛文檢地の時合
せて水帳に記されている。

開山履歴

開山大川巨海和尚、文永二年五月十五日示寂。曹洞宗への改
宗開山は石心宗玖大和尚である。

大幡

曹洞宗

大幡山広教寺

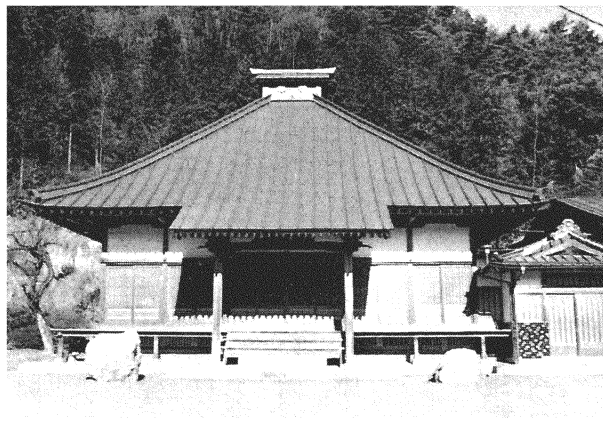
八代竜安寺末

末寺は大幡福源院、
富沢町宝全寺の二
カ寺である。

本尊由緒

延命地藏菩薩 木
像坐体 像長63
cm、

座底に「明徳元年
六月十六日、重吉
在判歳二十三」と
記されている。ま
た台座に「明徳元
年四月二十三日法



広教寺本堂

眼院普謹作」とある。体内に地藏立像の小仏像が祀られていたが、今はない。（甲斐国志には、明徳三年とあるが、明徳元年が正しいようである。）

合祀

千体薬師仏 木仏小像（元臨沢寺本尊であつたもの）

結構規模

〔本堂〕木像寄棟銅板葺 〔庫裡〕木造平屋タン葺
〔開山堂〕東司、鐘楼等 〔山門〕本尊聖観音
〔総門〕「大幡山」月舟和尚筆の額がある。（86 cm×180 cm）
〔付属建物〕十王堂、豊川稻荷大明神社、土蔵、鎮守祠三社
（白山、庚申、愛宕）等。

歴代住職

開山石心宗玖―二世一兆宗専（福源院開山）―三世無学宗豚―
四世笑山宗問―五世快舟宗悦―六世明室宗誉―七世能屋参芸―
八世通天関達―九世昏外存暁―十世一峰弘全―十一世大澄
洞水―十二世融利応円（耕雲院五世）―十三世大嶺智鏡（耕
雲院六世）―十四世瑞麟秀天―十五世泰仙秀道―十六世虎班
秀林―十七世大鏡祥全―十八世羅山石橋―十九世泰岳玄井―
二十世祥林天瑞―二十一世独提智拳―二十二世末山禅之（耕
雲院十六世）―二十三世猛山禅勇―二十四世任山卓之（現住）

古器什器宝物

・鳥居彦右エ門元忠の印書（天正十年十一月一日） ・羽柴
少将秀勝の印書（天正十九年正月十六日） ・加藤作内の
印書（天正十九年十一月十四日） ・鳥居久五郎成次の書
（慶長六年八月二十七日） ・水帳（寛文九年己五月三日、



本尊 廣教寺

寛政四年子二月）
・乃木大将自筆の書

・涅槃像、実像184cm×131cm

・仏像、大日如来像

行事

三朝祈禱会 春
秋彼岸会 宇蘭盆会 施餓鬼会 大般若会（一月）



三尊 阿弥陀寺善光

民間信仰行事

お薬師様縁日 十月十一日、
善光寺さま 一月七日
豊川稲荷大明神祭 四月十六日

大幡

曹洞宗 富光山福源院

広教寺末

〔付属建物〕 観音堂 七・五坪 木造 倉庫 七・五坪

木造

歴代住職

開山一兆宗専 永禄十二年三月二十日寂
広教寺二世

二世昏外存暁―三世一峰弘全―四世大祐積禪―五世疊山重―
六世大洞遷―七世泰宗峯観―八世石天麟峰―九世羅山石橋―
十世石瑞全橋―十一世大幡全龍―十二世祥林天瑞―十三世主
学明三―十四世一道映三（西方寺十四世、宝鏡寺三十四世）
―十五世光円時丸（宝鏡寺三十五世）―十六世光雲泰道（現
住）

古器什器宝物

羅漢巻絵一卷、龍掛軸一、観音掛軸一、涅槃像大一、大般若
一組、本尊仏、脇仏、仏像三体、観音像等。

石仏

賓頭盧尊者。

行事

一月 三朝祈禱会
二月仏涅槃会、春秋彼岸会、開山忌、
四月仏降誕会、
八月施餓鬼会、宇蘭盆会、



本堂 福源院

本尊由緒

十一面観世音菩薩
運慶作、当山三世一
峰弘全和尚代（元禄十
三年）に安置された。

合祀

地藏尊。

聖観音、無量寺の本
尊であったもの。

興起縁由

開基は虎山梵良和尚、
開山は広教寺二世一

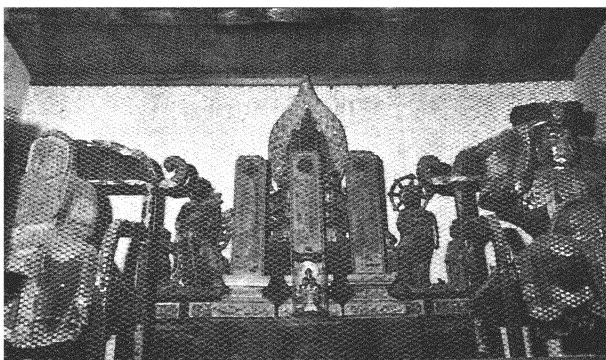
兆宗専和尚である。五世疊山重和尚の代（享保十七年）寺普
請、八世石天麟峰和尚代庫裡及び土蔵を建立以来十六代法系
連綿として現代に至っている。

開山履歴

開山は広教寺二世一兆宗専和尚である。

結構規模

〔本堂〕八十四坪〔庫裡〕七十一坪〔玄関〕十一坪半何れも
木造平屋建にて、屋根はトタン葺である。



本尊 福源院

十二月仏成道会 等。

民間信仰行事

閻魔十王
秋葉講
観音講縁日（八月）



鐘楼堂 福源院

大幡

曹洞宗 南浮渡山無量寺 福源院末（合併）

本尊は聖観音で、郡内十七番札所にして、八月十日は盛大な祭典が行われ現代に至っている。

明治初年福源院に合併し、本尊もまた福源院に合祀されている。

金井

曹洞宗 千眼山江西院 長生寺末

境内地八畝十二歩。

開基謙室益翁、天文五年歿。

開山長生寺三世一道光円禅師。

この寺は天巖祖曉禅師入院修行の寺として有名である。祖曉和尚七才の時、当寺に入り一山徹公和尚について得度している。元禄七年法泉寺第八世住職となり、宝永三年師席をついで江西院住職となり、正徳元年相模松石寺住職として転住するまで五年間、曹洞禅の高揚と一般大衆の教化に努められた。

此の寺今は伽藍がないが、境内の一部及び参道入口の「有無

縁三界万霊、宝曆九卯天七月施主善五右門」と刻銘されている石塔に江西院の歴史を偲ぶことができる。